



消防学校 ニュース



令和4年2月号

指令センター員講習（第4回）

～住民と消防を繋ぐ 119～

「消防職員特別教育指令センター員講習」を開催し、県内消防本部（局）から15人の通信指令業務従事者が参加しました。

通信指令業務は、初動部分の重要な役割を担い、119番通報から災害を種別し状況を聴取、速やかに出場指令を発令し、現場活動隊へ情報提供や指示、命令を行います。

通報者は、災害という非日常の中で消防職員に災害対応への大きな期待を寄せています。時には、不安や心配で興奮状態の方もいます。通信指令業務従事者には、通報者を落ち着かせ正確な情報を聴取するスキルが求められています。



入校前、抗原検査を実施



間隔を空けて聴講



WEB講義（東京消防庁）



毎朝、抗原検査を実施



模擬指令台で模擬訓練



ポジティブフィードバック

（担当教官コメント）

災害対応は、災害入電時から始まります。通信指令業務は、現場活動隊への情報提供など安全管理に対しても重要な業務であり、最前線の消防活動だと感じます。

今年度は、カウンセラーによるアンガーマネジメントやメンタルヘルス、救急事案の医学教育や緊急度判定、火災事案の状況把握（サイズアップ）、大規模災害入電事例での災害トリアージなどについて様々な講師の方から学びました。また、実技訓練では救急・火災事案での口頭指導訓練を実施し、通報者に対してのコミュニケーション能力向上を図りました。

今後も、住民のニーズに応えられるように講習の充実や強化をしていきます。

最後に、学生各自や学校の感染予防対策の徹底により、講習を実施できたことに感謝いたします。

教務課主査 早川 淳（磐田市消防本部から派遣）

The 30th
NATIONAL
AMBULANCE-CREW
SYMPOSIUM 2022
in TAKASAKI



第30回

全国救急隊員シンポジウム

2022年1月27日・28日

アジャスト 対応力を磨き救急の未来へと紡ぐ

～縁起のいい街 高崎から～

発表報告

森下教官がシンポジストとして WEB で参加！
救急科と実践的大規模災害対応講習の合同で実施した、
多数傷病者対応訓練の取り組みを発表しました。



WEB 上で発表する森下教官

第30回全国救急隊員シンポジウム
「消防学校教官シンポジウム」～効果的な救急隊員育成とは～

静岡県消防学校における 救急科の取組について



静岡県消防学校 教務課 森下善弘

【発表内容】多数傷病者対応訓練を実施するにあたり、救急科の学生は採用3年目以降の若手職員が中心で平均年齢及び現場経験も浅いため、指揮隊及び救急隊長役の経験が不足していたことから、実技を含む十分な訓練が実施できず、座学が中心となっていました。そこで、令和2年度は同時期に入校している実践的大規模災害対応講習と合同で訓練を企画しました。実践的大規模災害対応講習の学生は主に先着隊、指揮隊となり、現場指揮本部における活動要領の習得、情報共有能力及び評価を含む訓練運営能力の向上を、救急科の学生は現場の救急隊となり多数傷病者災害発生時における活動要領の全体像把握、傷病者トリアージの習得を目的としました。それぞれの役割を明確にしたことにより、大規模な訓練が実現でき教育効果は非常に高いものとなりました。今後は、関係機関を含めた訓練を計画して、より充実した救急隊隊員の育成を図ります。

全国救急隊員シンポジウムの発表において、同じ境遇にある全国の教官方と活発な意見交換及び素晴らしい発表を拝聴し、大変有意義な時間を過ごさせて頂きました。また、他県における先進的、かつ、熱意のある教育訓練の取組を知ることができ、非常に参考となりました。そして、教育現場の根幹である消防学校の現状や課題を全国へ発信できたことは、非常に有意義だと感じました。今回、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い WEB 上での発表でしたが、私にとっても本校においても「貴重な経験と財産」となりました。今後もこのような機会があれば、積極的に発表していきたいと思えます。

消大レポート 消防大学校幹部科（第67期）



幹部科第67期



指揮シミュレーション訓練



実火災体験型訓練



消防大学校（東京都調布市）

令和3年10月14日（木）から12月1日（水）まで、消防大学校の幹部科（第67期）に入校し、上級幹部たるに相応しい人材を養成する目的の下、消防に関する高度な知識及び技術を学びました。コロナ禍のため、10月22日（金）までは消防学校でリモート講義を受け、10月25日（月）から消防大学校に入寮し、全国各地から集まった57名と意見交換をしながら大変有意義な研修生活を送りました。

カリキュラムは、著名な講師による座学と現場指揮に特化した実科訓練を中心に構成されており、専門分野の知識習得と現場対応能力の向上に繋げることができました。

なかでも、議会対応や報道対応演習など、今まで経験したことがないことを学べたことは、難しさを感じながらもイメージを掴むことができ、有事の際に経験が活かせると思います。

課外時間には、各県の消防学校教官の学生が集まり学校教育について意見交換をしたり、宮城県や熊本県の学生から大規模災害時の緊急消防援助隊の受援についての体験談を伺い、必要な備えを考えたりと大変勉強になりました。

今後も同期との繋がりを大切にし、消防大学校で得たものを学校教育に活かし、所属に還元して更なる対応能力の向上に努めていきたいと思っています。

教務課 主査 埴淵茂樹（浜松市消防局から派遣）



消防大学校レポート

警防科第 109 期

R3. 10. 20~12. 9



The 109th Fire Suppression Course 人間愛

FDMC

Fire and Disaster Management College
From October.20 through December.9, 2021

消防大学校の警防科は、消防幹部教育としての警防指揮者養成を色濃くしたカリキュラムでした。



全国規模の大切な人脈ができました



多発火災指揮シミュレーション



小隊指揮訓練



戦術を構築してから中隊指揮をとる



換気戦術訓練



多数傷病者交通救助指揮訓練



土砂災害救助技術と指揮訓練



危険物火災対応・危険物漏洩防止訓練

消防業務は多岐にわたりますが、直接災害鎮圧と排除を実施する警防業務は、消防の根幹を成すものの一つです。近年、全国的に火災件数は減少傾向にありますが、自然災害を始め災害自体の規模が大きくなっており、応援協定や緊急消防援助隊の早期要請、受援体制の強化と警防業務の重要性はますます高くなっています。

消防大学校の警防科は、時代のニーズに合った幅広い講義や訓練内容でしたが、指揮に関しての徹底した教育はとても勉強になりました。災害鎮圧はその規模に関係なく、指揮のもと統率のとれた活動でなくてはならず、戦術が高度になればなるほど指揮統率力も上げなければなりません。指揮者は単に統率力だけではなく、科学に基づいていなければなりません。「命令」は誰でもできますが、部隊を動かす「指揮」は専門に勉強をしなければなりません。火災科学、安全管理、戦術、組織運営を統合的に理解してこそ、最高のコマンドと安全管理ができるものだと思います。消防大学校で学んだことを、効果的に消防学校教育に取り入れたいと思います。

教務課主査 田島 貴俊（富士市消防本部から派遣）

太田校長のちょっといい話



今年度も後1ヶ月あまりとなりましたが、新年早々に新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した救急科もなんとか修了まで持ちこたえることが出来そうです。

救急科が修了すると、今年度は予防査察・危険物科を残すのみとなりますが、感染対策として救急科同様にリモート講義がメインとなり、学生が登校するのは、実習の2日間のみになる予定です。

私も3月末で退職となり、ちょっといい話も今月の「その10」をもって終了となるので、私が若い頃から座右の銘というか好きな名言二つを紹介したいと思います。

はじめは、寄席芸人伝(古谷三敏作)という漫画の中での一節で「人の値打ちとタバコの味は、煙になっ**てはじめてわかる。**」(作者不明)という言葉です。

今は喫煙者も減り、電子たばこも増え、タバコの煙も副流煙とか受動喫煙とか悪いイメージしかありませんが、自分が若い頃には、タバコを吸うことを「紫煙をくゆらす」と言ったり、テレビや映画でも重要な意味を持つ場面で利用されていたりしましたが、今ではおいしそうにタバコを一服という場面も見かけなくなりました。

人についても、生きている時にはその人に気遣ったりして、なかなか本音を言えなかったり、逆に感謝の言葉を伝えることが出来ないまま時間が過ぎてしまったことが多いと思いますが、亡くなって火葬場で煙になる時に、初めて、その人の本当の価値がわかるのかもしれない。自分もその時には惜しまれる人であるよう今後も精進していきたいと思います。

次は、幕末長州藩の志士高杉晋作の辞世の句とされている「面白き こともなき世を 面白く」です。

この言葉は、司馬遼太郎の「世に棲む日日」やNHK大河ドラマ「花神」などでも出てきており、ご存じの方も多いと思いますし、有名人でも座右の銘にされている方もいるようです。

下の句は、「住みなすものは 心なりけり」で、野村望東尼が付け加えたともされ、「花神」ではそのように描かれていました。29歳の若さで波瀾万丈(というより無茶苦茶)の生涯を終えた彼には、上の句だけで十分だと思います。

私は、泣くも一生笑うも一生ならば、笑わないと損だと考え、仕事も出来る限り楽しもうと考えて働くようにし、大変な仕事でも、すごい経験をさせてもらっている、きっと将来話のネタになる(実際ネタにしてますが)と考えて働いてきました。

時間は戻らないですし、どうせ一度しかない人生であれば、できる限りいろいろな体験をした方が、なんか得した気分です。(単に飽きっぽいだけかもしれませんが)

ただ、楽しく仕事をするためには、自分だけでなく、周りにいる上司や同僚に恵まれないと厳しいですが、その点については、今まで恵まれてきたと思います。また、最後の仕事で消防学校に赴任し、学生たちが成長する姿を日々目にすることが出来たことは、私にとって貴重な体験となりました。

残りの日々も今まで同様に働き、最後に笑って退職したいと思います。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町1-577-1
☎ 054-369-1190 FAX: 054-369-1197

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

